

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800480		
法人名	有限会社 啓愛の里		
事業所名	さくら		
所在地	埼玉県秩父郡小鹿野町般若821		
自己評価作成日	平成22年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成22年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との触れ合いを大事にし、地域の行事やお祭り、小中学校の運動会などの参加を積極的に行っている。入居者一人ひとりのペースに合わせた活動や生活を心掛け、職員同士が協力し合い助け合っている。また入居者の立場に立った物の考え方、声掛けなどをし、その日その日の業務の中で日々向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な場所にホームがあり、四季の移り変わりも身近に感じられる。大自然に恵まれた環境の中で、利用者と職員の笑い声が絶えない明るいホームである。デイサービスの併設もあり、イベント開催には大勢で楽しむことができ、いつも賑やかな雰囲気を感じられる。一部の利用者の若年化がみられるが、職員の見守りの中、利用者と職員がお互いに支え合う関係が構築できている。安全面では所長の自宅が隣接していることもあり、夜間体応の職員が安心して業務ができる体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々理念を念頭に置きケアしていく事を話したり、理念の解説や実践へのつながりについて話し合っている。 毎朝申し送り時に理念の復唱をしている。	心に届く声掛け、日々向上する心、感謝の心を忘れずに、ケアを継続していく中で、職員間の問題の解決、利用者との関係をより良く築くために、繰り返し理念の唱和に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元小中学校の運動会や地域のお祭りなどに参加をし地域の方々と交流を深めている。小学生なども来所してもらっている。	地域との交流は円滑に実施されているが、受け身的な参加が多く、ホーム側からも地域にイベント等の情報を発信していきたい意向がある。	地域の小中学生や住民とゴミ拾いの活動を実施したいという構想があり、職員、利用者に趣旨を理解してもらい、協力して実行に繋げていく準備をしていきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方や家族の方からの相談があればいつでも応じるようにしている。また見学などは支障がない限り応じていて、その際にアドバイスのことを伝えたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の報告を行うと共に会議で出た意見に対しては職員全員と共有し改善策を検討、実施している。	老人クラブの代表者、町の福祉課職員、利用者、家族、各学校長等の参加協力がある。定期的に開催され、意見交換等が活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に色々な事を相談したり話し合えるようにしている。運営推進会議にも出席していただき認知症に対する理解を深められるようにしている。	小鹿野町はモデル地域であり、福祉が充実しているため、町職員が協力的である。入居の相談等、いつでも相談可能な関係が築かれており、関係継続していく努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修や外部研修に参加し報告やミーティングなどで情報の共有や話し合いをしている。	現状は拘束が必要な利用者がいないが、ケアの中で気付いたことを検討し、利用者がその人らしく生活できているか、声掛け、援助の振り返りを行い、外出希望者に対しては極力意向に添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修や外部研修だけでなく、日々の支援の中で虐待につながる危険がある部分の改善や話し合いを日々行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護についてミーティングで話し合ったり外部研修に参加しそれを職員が共有できるように報告したりしている。その様な制度利用が必要と思われる方に対しては家族の方などに制度について話をさせてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その場で説明するだけでなく疑問があったらいつでも受け付けることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支援では傾聴に心掛け、話しやすい環境に努めている。隠れたニーズなどに対しても気づけるように話し合っている。得られた意見に対しては改善策など話し合い実施している。	協力してくれる家族が多く、面会時にいろいろな意見、要望を把握することができる。利用者からも、外出の行き先等助言されることも有り、できるだけ対応し、生きがいに繋げる支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば随時連絡してもらっている。毎日の引き継ぎなどでも話し合えるようにしている。	「本家」「新宅」の職員を交換して、支援する試みを実践し始めており、将来的にはユニット間で区別なくケアができるよう努力をしており、イベントのプランは職員が全面的に対応して好評を博している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に合わせ激励したり、日常的に本人の意欲の向上が図れるように相談や悩み事を聞く態勢を取りアドバイスをするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加やホーム内研修を実施している。日常でもケアに対する疑問や不安点について話し合い日々向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が納得できるまで説明などすることを常に努力している。面会時以外でも電話など受け付けることを説明している。家族の要望も聞き業務に取り入れている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方々が納得できるまで説明することなどを常に努力している。面会時以外でも電話などで相談や説明などを実施している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、できないことを日々観察し、できることは行ってもらおうという事を心掛けている。「生活の主体は入居者にある事を念頭におき実施に結び付けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事の参加や定期的な面会、外出などのお願いを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会を依頼したりしている。買い物などに出掛け、地域の方と接することを日々行っている。	来訪者が多い中で安全上、家族に確認をとる場合がある。墓参り同行、実家への帰宅支援等、できるだけ地域での関係を継続できるよう、安全に留意し支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に見守りや会話に職員が入り対応している。輪に入りづらい方などには、他の入居者と関わりが持てるように職員が橋渡しをしている。トラブルが起きないように間に入るようになっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人・家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望や希望を受け入れ迅速に対応することに努めている。困難な場合には職員全員で話し合いを行っている。	可能な限り意向を把握し対応しているが、生活歴と併せて意欲を引き出し、生活に張り合いが生まれるように職員全員で周知して、想いに気付くよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの他に生活歴シートを使用したり本人や家族の方から情報を得た場合には記録し、共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に職員から情報提供シートを書いてもらったり日々の観察を行い、いつでも話し合えるようにしている。ケア記録の充実と申し送りの共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い職員同士話し合いをしている。本人・家族からの要望・希望を聞き、それぞれの意見を取り入れた介護計画を作成している。	短期目標毎に振り返り、実施状況を適正に記録出来ている。計画見直し時に担当者会議を開催し、職員の気付きが反映されているか確認してから、家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や変わった事など個々のケア記録表に記入し、いつでも読めるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の補助や買い物など家族や本人の要望により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察などに外出傾向の強い方の特徴を伝えたり、小学生の体験授業で来所してもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があった場合は対応している。情報提供などを行い関係形成に努めている。緊急時なども本人や家族に確認を取っている。	できるだけ家族対応をお願いしているが、状況によってはホーム対応の受診も可能な体制は整っている。かかりつけ医とは、休日でも連絡可能であり、随時適切な指示を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職が常勤しており必要に応じて相談している。協力医療機関と密な関係を築いており柔軟な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関とよく話し合ったり、日々の様子など情報交換をしたり、面会に行き本人の状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて今後の事について家族の方と話し合い柔軟な対応ができるようにしている。	食事摂取不可、点滴対応等になった場合は医療対応が必要と考えている。職員は利用者のわずかな変化を見逃さず、可能な限り迅速な支援をしている。移送、入院の連携体制は構築できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、消防員を招き指導を受けたり緊急時の対応についてマニュアルを作ったり話し合ったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難訓練は実施しているが夜間は実施できていない。地域の方との協力については近隣の方に説明を行い、何かあった場合は協力してもらえる態勢になっている。	近隣住民や地域ネットワーク等との協力関係は構築できている。夜間非常災害対策の強化の必要性を強く認識している。	特に夜間災害時の避難誘導や車椅子の利用者の対応を強化するため、関係機関の協力を得て避難訓練等実施していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心へ届く声掛けを念頭におき、その人に合った声掛けを心掛けている。状況に応じて居室で話しをしたりしている。	排泄時の動作の気付き、時間間隔、見守りを行いながら、失敗感を感じさせないよう支援している。周囲に気を配り、利用者間の問題に対しては随時誠意を持って、解決に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のできること、できないことを把握し対応している。買い物などは一緒に行き、食材、食器、衣類など自分で選んで買えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要するのではなく、その人がその日その時やりたい事、したい事を尊重し見守り支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは本人が好む物を購入したり着用してもらっている。理容、美容などは家族の同意や本人の了承でホーム内でのカットを実施しているが他の場所の希望があった場合は美容院へ行きカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けは入居者の方と一緒にやっている。四季折々の食材を使用し楽しい話題とともに食事が楽しめるようにしている。食べたい物の希望があれば取り入れたりしている。	下膳は全員で行い、食器洗いは当番制で実施している。自家農園の野菜や近隣からの差し入れの食材を多く取り入れた食事は、会話も弾み、おいしい食事が提供できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェックや定期的に水分を提供している。食事中も声掛けを行いバランス良く食べてもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っている。義歯の方は就寝時、洗浄剤に浸けるように支援したり、ブラッシングの一部介助を行っている。また介助中に口腔内の観察を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりに合ったトイレ誘導を行っている。	尿失禁者が多かったが時間誘導を繰り返し、尿意便意の感覚が戻り、リハパンのみになった利用者が増えた。日中は布パンツに移行できるよう、ケアの継続に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し常に排泄に気を配っている。便秘気味の方には水分量や活動に留意しながら声掛けや医師に相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則入浴日は、月・水・金曜日の午前中に行っている。入居者の方もその時間帯や曜日で納得している。また必要に応じてシャワー浴や清拭なども実施している。	その日の体調により、拒否が強い時は曜日を変えたり、シャワー浴、清拭に変更して清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて休める時間を確保している。夕食後はホールでテレビを見たり自室で読書をしたり思い思いに過ごして就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方が飲んでいる薬剤の種類や効能、副作用などの表を事務所に置きいつでも見られるようにしてあり、必要に応じて薬剤の説明を行っている。服用にて異常が起きているかどうかの判断は常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で役割(食器洗い、掃除など)を持って過ごせるように支援している。また趣味(あみ物、小物作り)も実施できるようにしている。レクリエーション(輪投げ、カラオケ、卓球など)も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の希望があった場合はその都度対応している。また買い物や精米など入居者の方と一緒にしている。	近隣のジャガイモ堀り、長瀬遊覧、花見などの外出支援を天候に配慮しながら実施している。外食支援は要望が多く、積極的に実施している。家族の参加もあり、楽しい時間を共有できている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に説明して小銭は持ってもらっている。その他トラブルになる以外は所持している。本人が希望の商品の購入ができるように支援したり会計もできる限り本人に行ってもらえるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は希望があった場合対応している。家族以外の方への電話は本人の状況や家族の方に確認を取り対応している。手紙は希望があれば対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家庭と同様の作りとなっているが車椅子でも使用しやすいような高さの洗面台やトイレの場所が分かりやすいような配色になっている。また気候に合わせて障子やカーテンを使用し対応している。	利用者はリビングの共有空間にいたることが多いため、テレビを見る位置や座る位置に関して、くつろげる空間を提供できるよう職員が努力している。居ながらにして、四季の彩りを身近に感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファ、こたつを置いたり、テーブルの配置を別々にするなどして対応している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好む物を家族の方に持って来てもらったり、買い物で購入したりしている。写真やぬいぐるみなどを飾ったりしている。	その人らしく生活をしていく支援が基本ではあるが、生活品がかえって混乱を生じさせてしまう場合があるため、家族に相談をして平穏な状況を維持できるよう環境作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差などの解消や手すりの設置、本人が使いやすい位置に家具などを置いたりしている。トイレの位置など解りやすい用に配色や照明をしている。			